

# 日本体育大学

## 令和8年度入学者選抜 【出題の意図・模範解答】

学部・選抜方式	全学部 学校推薦型選抜 スポーツ推薦
科目	小論文

### 【出題の意図】

- ・論旨が明確であり、誤字脱字がなく、文字数が適正範囲内であり、文脈から要旨をつかんでいるか。
- ・記述内容として、「競技を公平にするためのルール」、「ルール解釈に文化の違い」、「体重別・階級制」、「性別・人種・障害」、「公平な試合環境」などをどのように導き出して関連付けているか。
- ・近代スポーツの変遷と社会の価値観の変化を結び付けて論じられているか。

### 【模範解答】

スポーツの公平性は、大きく分けると二つに分類される。競技が平等な条件で実施される「結果の公平性」と、競技に参加する権利に関わる「機会の公平性」である。機会の公平性の一例として挙げられるのが、女性のスポーツ参加だが、学校教育で性別による差別化を禁じる法律がアメリカで制定された1970年代以降のことである。また、近年ではトランスジェンダーの競技参加に対して議論がなされているが、これまで性別変更を想定しない出場枠であったためである。このように機会の公平性を多くの人たちへ担保する方向へ進んできた歴史を考えると、スポーツは時代の価値観を反映していることがわかる。

結果の公平性はスポーツの商業化から影響を大きく受けている。英国発祥の近代スポーツは教育的であり勝敗へのこだわりは強くなかったが、米国ではプロ化が進み、勝敗が重視されるようになったため、競技をビジネスとして成立させるために会場のホームとアウェー、体重別など公平な試合環境を整えるようになった。メディアを媒介にしてスポーツ市場は大きくなり、審判もビデオ判定が導入されるなど厳格化している。コンタクトスポーツは階級別であるからケガのリスクを抑えられる。競技においては、体格差がない選手同士で戦うことや男女別の区分は安全に競技ができることを担保しているだろう。

日本ではルールの盲点をつくことは「良し」とされないが、ルール違反でなければ用具の使用などに関してグレーゾーンでも勝つために使用を優先する国もある。勝つために優先する手段の違いに文化の違いが公平・不公平の捉え方に現れることもある。